

1. 活動日時

令和6年1月18日(木)

2. 活動場所

珠洲市立大谷小中学校

3. 状況（大谷地区）

1月18日現在、大谷地区は自衛隊等の車両での移動が必要な孤立地域であり、物資や医療班等については、自衛隊とともに避難所へ入っている。本日14時時点での大谷小中学校避難所避難者数：138名（59世帯）：体育館99名、感染症対応部屋39名、車中泊2名（内訳：65歳以上：88人、要介護者13名、妊婦0名、乳幼児0名、児童6名、中学生5名、その他要支援者18名）

・ライフライン

電気：北陸電力より送電線を引き、避難所のみ送電可能となっている。

ガス：LPガス協会より小型の給湯器が設置されている。

水：自衛隊による支援物資の配給により対応。

電話：携帯電話はつながるが、衛星電話については避難所内ではほとんど繋がらない状況。

《衛生環境》

避難所は、外履き用と上履き用にゾーニングで履き分けられ、段ボールベットが設置されており、換気や掃除が適宜実施されるなど、避難所内ボランティアの協力もあり一定の衛生環境が保持されていた。トイレは、上下水道がストップしているため、常設トイレでビニールに高分子吸収剤を使用した方法で、女性トイレは比較的清潔が保たれている。男性トイレは、床が水浸しで、必要物品補充や排せつ物の処理等が不足していたため、トイレ用の下足が必要で外履きとのゾーニングが必要であると思われた。そのため、ミーティングでは、トイレ用スリッパを依頼させていただく。また、水洗の仮設トイレ二基が搬入され利用できるようになったため、男女比と衛生状況を検討し男性と女性のどちらで使用するかについて、明日検討する。AM環境省の調査があり、浄化槽の点検で、使用が可能であるということが判明し、給水車によりくみ上げて、水洗トイレが使えるようにできる様子、時期は未定。

避難所への交通手段の断絶等により孤立化。発災後より殆どの避難者が入浴出来てきていなかった。本日より入浴希望者は、社協の蛸島への送迎で、自衛隊風呂の利用が可能になったが、車移動に約1時間かかるため、高齢者の長時間移動を配慮し実施できていない。一方で、避難所内に五右衛門風呂の設置等の話も出ている。インフルエンザ、新型コロナ感染症関連した隔離対応者は本日時点で23名、各教室にコホート収容されている。そのため、食事、暖房、ごみ、健康管理等の生活・健康支援を継続する。

《学校再開状況》

小中学校の授業開始に伴い、本日より授業チャイムを、11:00、11:45、12:00、12:45に鳴らすことがアナウンスされる。文科省より、建物の安全調査が入る。

4. 活動の実際

03:00 金沢駅発→のと里山街道→徳田大津から迂回経路→国道249号線（一部、地震の影響により農道へ迂回経路あり）→国道1号線（地震の影響共により一部迂回あり、小雨・みぞれにより、一部道

路凍結) →穴水町→珠洲市

07:20 珠洲市県民体育館到着

07:30 ラップポイントイレおよび手すり搬入、組み方レクチャー(日本セーフティー、日本財団)

07:50 自衛隊車にて、珠洲市立大谷小中学校へ(地面の亀裂や陥没、家屋の倒壊、土砂崩れ、積雪等にて大型車両は通行が出来ないため、物資・医療等、自衛隊車にて1日に1回地域へ行き来している。)

08:40 珠洲市立大谷小中学校着

08:50 災害看護学会前部隊からの引継ぎ 避難所本部職員等とのミーティング

～ 避難所全体の把握(避難者数:体育館:99名, 感染者対応部屋:39 屋内計138, 車中泊2名:全体140), トイレの衛生環境確認・避難者の体調・状況確認

10:00 避難所往診自衛隊医師・看護師・隊員との情報共有、便秘、高血圧、下肢の浮腫、精神面、常用薬の不足などの相談多い。診察対象者を選定し Full PPE にて、感染者と濃厚接触者の健康観察及び診察同行。計39名健康観察。

12:00 自衛隊医師等と本日の診療後カンファレンス

13:00 各種健康相談 血圧測定・衛生管理他

隔離ゾーン、感染者(インフルエンザ、コロナ)対応、二次避難に向けた対応

14:20 避難所本部職員(応援:千葉県)との情報共有および気づきの共有

15:00 二次避難先に関する説明会(本部)

16:00 健康相談、衛生管理、感染症対応、他

17:00 感染者への食事の配膳、回収

19:00 本部全体ミーティング

20:30 ホットタオルの配布、避難所就寝前準備対応相談対応、浮腫等のケア、認知症ケア対応
避難所内着替え等プライベートスペースの設置

21:00 感染症の方への対応、ラウンド、相談対応 他

0:00 ラウンド

03:00 ラウンド

※二次避難について

希望調査では本避難所の43名が、富山の二次避難所となるホテルへ、1月20日(土)、集団避難することが決定する。コミュニティ単位で皆同じ場所に行きたいという要望もあり、本避難所の避難住民は皆同じ二次避難先に移動できることとなる。石川県内では、100名以上の規模で集団避難ができる施設がなく、富山県富山市のホテルに決まったとのこと。家族単位での入居予定。20日午後からは、避難所内の人数が少なくなるため、この機をチャンスに、新たに所内の避難者の配置・トイレのゾーニング等計画する予定である。

二次避難についての周知のため本部職員が来所される。住民の声は、概ねがまた戻って来れるのか、移動先は皆同じ所なのか、移動先での薬の処方はどうしたらよいか、珠洲市の仮設住宅の情報などであり、生活全般について不安な声が聞かれた。

※健康確認・相談等

血圧・体調の相談、2日後の二次避難に向けた相談が多かった。薬の相談には、「二次避難をするが、

避難先で薬が切れてしまうためどうすればよいか」という内容も多く、服薬内容・既往などについてご本人と確認し、二次避難に向けて、今後の薬の処方の方法等について確認した。

二次避難先の生活、コミュニティ、今後またこの地域に戻れるのか、仮設住宅などの相談、便秘や服薬の相談が多かった。処方されている薬について、いつ、どれを、何錠飲むのかがわからなくなった、服薬をしていないという高齢者も複数みられたことから、個別に服薬時間と錠剤の確認、わかりやすい表記の工夫などを行い、服薬支援を行う。

被災者は、継続する余震の中で、二次避難の話への気持ちの切り替えなど心の不安や葛藤の為、不眠の様であり、一様に血圧が高く概ね 160mHg 前後である。発熱者は 1 人、咳・感冒症状等を数名認める。必要に応じバイタル測定、処方されて届いている内服薬の配布、水分摂取や換気などの環境調整を行う。避難所の支援者は概ね地元住民であり、ボランティアスタッフも被災していること、被災後 3 週間精力的に活動していることから疲弊も見られるため、支援スタッフの血圧測定や健康チェックを継続する予定。

5. 考察

孤立地域の避難所であるが、支援や物資については定期的に搬入されており、住民同士の協力で避難所が運営されている。地元の住民とも協力し、千葉県職員（災害派遣）、日本災害看護学会先遣隊員等が協働し、避難所対応、感染症対策、今後の二次避難の実装に向けた支援、健康観察・相談を継続している。

本避難所のほとんどは高齢者である。発災後より継続する避難生活により、避難所内にも心身の疲労が次第に大きくなってきている。一方、避難所内では日ごろからの顔見知りも多く、ボランティアにも地元の顔見知りの方が多いことから、話しかけやすい雰囲気、運営に皆協力して活動し、互いに気遣いながら避難生活を送っている。なお、避難所内では、臥床していることが多く、また座っていることが多い傾向にあることから、被災後の体を動かす機会が減少しており、水分摂取不足や運動不足等による便秘なども多いことから、生活不活発発病の予防やエコノミークラス症候群の予防を取り入れていく必要がある。

時期的には発災後 2 週間以上経過しているが、震度 7 の被害の大きさ、津波、土砂災害、火災、等の複合災害であること、広域なライフラインの回復の遅れ、悪路、積雪等が重なり、いまだ急性期の対応が必要であり、健康や精神面、メンタルへの影響などと並行して、衛生環境支援、健康維持への取り組みが必要である。

6. 参考写真



珠洲市までの道路・夜間凍結，多数段差有



隆起した海岸線



倒壊家屋



避難所内ミーティング



自衛隊による巡回往診

物資搬入



感染症対応